

# 大カおししよう

村の小道で、荷車がぬかるみにハマって、うごけなくなっていました。  
 これでは、人も馬も通れません。  
 そこに、西来寺の開田というおししようさんが通りかかりました。  
 「おお、それはおこまりだ。どれ、わたしがどかしてみましよう。」  
 「えっ、おししようさんが一人で？」  
 荷車をおしていた人が、目を丸くしました。  
 おししようさんは、にっこりわらって、荷車の下にうでを入れました。  
 「えいっ。」



おはなしのぶたい

名古屋市北区

おししようさんがカを入れると、荷車はすうっとうごきました。  
 「おおっ。」  
 「たいしたカもちのおししようさんじゃ。」  
 村の人びとは、びつくりしました。

このおししようさんが、あるとき名古屋城の前を通りかかりました。  
 おほりのそばに、大きな黒いとびらがおいであります。今はつかわれていないものようです。  
 「さすがおしろだ。ずいぶんりっぱなとびらだなあ。寺の門にはめたら、ちやうどよさそうだ。」

そう思ったおししようさんは、近くにいたやく人にたのんでみました。  
 「このとびらをいただけませんか。」  
 「一人でもつなら、やってもよいぞ。」  
 そして、もう一人のやく人が、ふふんとはなをならして言いました。  
 「もちろん、一どに二まいだぞ。」  
 てつのかなぐのついた、がんじょうなとびらです。一人で一まいもつことだって、できそうにありません。







とびらを 頭に のせて、おしょうさんは、  
ずんずんと おしろを 出ていきました。  
二人の やく人は、口を ぽかんと あけた  
まま 見おくりました。  
寺に もどった おしょうさんは、さつそく、  
門に とびらを とりつけました。二まいの  
とびらは、ぴたりと 門に おさまりました。

「これは、りっぱな とびらだなあ。」  
「それにしても この おしょうさん、もの  
すごい 力もちなんだなあ。」  
それから ずっと、この 村の 人びとは、  
この 門を 通るたびに、おしょうさんの こ  
とを うわさしたと いうことです。

二人の やく人は、顔を 見合わせて、にや  
にや わらっています。  
「ありがとうございます。それでは、いただき  
てまいります。」  
おしょうさんは、にっこり わらって、二ま  
いの とびらに 手を かけました。  
大まじめな おしょうさんを 見て、やく人  
たちは 言いました。  
「やめておけ、やめておけ。」  
「けがを してからでは おそいぞ。」  
おしょうさんは、「やあつ。」と 大きな 声  
を 出しました。  
すると、どうでしょう。おもい とびらが、  
二まい、ずい、ずい、と、頭の 上に もちあ  
げられていくではありませんか。  
やく人たちは、思わず、「ひえーっ。」と 声  
を あげ、すわりこんでしまいました。

### どんせつメモ

大力おしょう、  
開田の もち帰つ  
た 二まいのと  
びら。これらは、  
もともと、名古屋  
城の できる 前  
に、清須城で つ  
かわれていたも  
のではないかと  
いわれています。  
とびらの 上の



西來寺に のこる とびら。

ぶぶんには、すきまが あいています。これは、しろ  
の 外の ようすを 見るのに やくだっていたと  
考えられています。ぶあつくて がんばりやうな とび  
らは、もちろん、てきの しん入を ふせいでいたこ  
とでしょう。

とびらを のぞくと、さむらいの すがたが ちら  
りと 見えたような 気が しました。

〈場所〉名古屋市中区金城